

みんなで学ぼう！ 下水道 Q&A



(公財)広島県下水道公社

この「下水道Q & A」は、太田川東部・芦田川・沼田川（ぬたがわ）浄化センターに見学に来られた小学生などからの質問を基に、できるだけわかりやすい言葉を使って作成しています。

もくじ

1 下水道全般に関すること	1
Q 1 : 下水道はいつごろできたのですか?	1
Q 2 : なぜ、下水道が整備されるようになったのですか?	1
Q 3 : 下水管には、降った雨水も入ってくるのですか?	1
Q 4 : 広島県内には、いくつの浄化センター（下水処理場）があるのですか?	2
Q 5 : この下水道の普及率はどれくらいですか?	2
Q 6 : なぜ、9月10日が下水道の日なのですか?	2
Q 7 : 下水道のない地域はどうしているのですか?	3
Q 8 : 下水からは、においが出るのではないですか?	3
Q 9 : 下水から出るにおいやガスは危険ではないのですか?	3
Q10 : 浄化センターでは、どのような人が働いているのですか?	4
Q11 : 日曜日や正月は休みですか?	4
Q12 : 仕事をしていて、うれしいことはどんなことですか?	4
2 施設に関するこ と.....	5
Q13 : どうしてこの場所に、浄化センターができたのですか?	5
Q14 : ここには、どこからの下水が入ってくるのですか? また、そこには何人住んでいるのですか?	5
Q15 : この施設はいつごろできて、広さはどのくらいですか?	5
Q16 : この施設をつくるのに、どのくらいの費用がかかっているのですか?	6
Q17 : ここに入ってくる下水の量はどれくらいですか?	6
Q18 : 下水管の長さを全部足すと、どのくらいになりますか?	6
Q19 : 下水管の太さ（内径）はどのくらいですか?	6
Q20 : 下水がきれいになるまで、どれくらいの時間がかかるのですか?	6
Q21 : 下水の流れるスピードは、どれくらいですか?	7
Q22 : 傾けて埋められた下水管は、浄化センターにはいってくるときには 地下何メートルくらいになりますか?	7
Q23 : 下水管の点検は、どのように行っているのですか?	7
Q24 : 下水管が詰まったときは、どうやって取り除いているのですか?	7
Q25 : 浄化センターには、どのような機械や設備がありますか?	8
Q26 : 機械や設備があるところは、どうなっているのですか?	8
Q27 : 停電になったら、機械や設備は停止するのですか?	8
Q28 : 機械や設備を守るためのお金は、だれが払っているのですか?	8

3 水質に関すること 9

Q29 : 淨化センターには、どのような所から汚水が入ってくるのですか？	9
Q30 : し尿の割合は、全体のどのくらいですか？	9
Q31 : きれいな水にするために、どのようなことをしているのですか？	9
Q32 : 下水をきれいにするために、薬品は使わないのですか？	10
Q33 : 下水の処理水で、魚が死ぬことはないのですか？	10
Q34 : ビオトップのメダカは何を食べているのですか？	10
Q35 : ビオトップにはメダカしかいないのですか？	11
Q36 : どうやって水がきれいになったかを確認するのですか？	11
Q37 : きれいになった水は、どうしているのですか？	11
Q38 : きれいになった水は飲めますか？	12
Q39 : わたしたちが気を付けることは何ですか？	12

4 下水汚泥に関すること 13

Q40 : 下水汚泥は肥料やセメントになる、と聞きましたが本当ですか？	13
Q41 : 下水汚泥の活用は、肥料とセメントだけですか？	13
Q42 : 1日どのくらいの下水汚泥が出るのですか？	14
Q43 : 汚泥からどのようにガスを発生させるのですか？	14



1 下水道全般に関すること

Q 1：下水道はいつごろできたのですか？

A 1：下水道の歴史

- ① 世界最古⇒ 約4,000年前 [古代インドのモヘンジョ・ダロ]
- ② 日 本⇒ 約140年前 [東京の神田下水で明治17年(1884年)]
- ③ 広 島⇒ 約120年前 [広島県の広島市で明治41年(1908年)]

※日本と広島については、下水道事業を始めた年です。

Q 2：なぜ、下水道が整備されるようになったのですか？

A 2：衛生面や生活環境の改善のため、下水道が普及してきました。

下水道がなかったころ

- ① 流れずにたまつままの汚水が原因で、コレラや赤痢などの伝染病が流行し、多くの人が亡くなりました。
- ② 家庭の台所や風呂場、洗面所などからの水（家庭排水）や、工場からの水（工場排水）がそのまま川や海に流れることで水質が悪化し、泳げなくなり、魚や貝が住めなくなりました。
- ③ 町の中心部では、大雨で道路や家が浸水する被害が出ました。

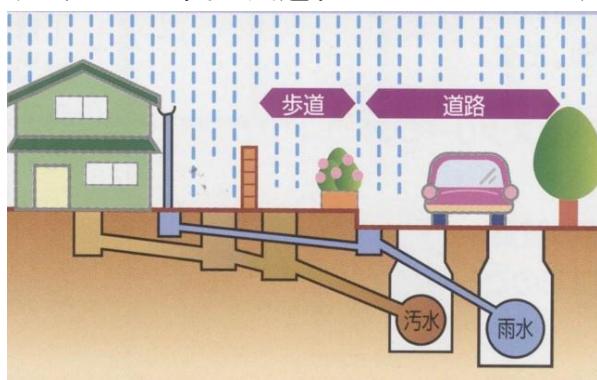
Q 3：下水管には、降った雨水も入ってくるのですか？

A 3：下水道には合流式と分流式の方法があります。

(イラスト：国土交通省ホームページより)



【合流式】汚水と雨水が同じ管に入る
雨水は浄化センターに流れる



【分流式】汚水と雨水が別々の管に入る
雨水は川や海に流れる

※公社が運営する3か所の浄化センターは、いずれも分流式です。

Q 4 : 広島県内には、いくつの浄化センター（下水処理場）があるのですか？

A 4 : 公社が管理している3か所の浄化センターを含め、現在65か所あります。

＜参考＞

県内には23の市町があり、このうち18の市町に下水処理場があります。

※ここでは、下水処理場を「浄化センター」といいますが、市町によっては「水資源再生センター」や「水質管理センター」などというところもあります。

Q 5 : ここの下水道の普及率はどれくらいですか？

A 5 : 令和5年度（2023年度）末の人口普及率

① 太田川東部⇒	・広島市	99.0 %	・府中町	100.0 %
	・海田町	100.0 %	・熊野町	90.6 %
	・坂町	99.1 %		
② 芦田川⇒	・福山市	94.4 %	・府中市	44.8 %
③ 沼田川⇒	・三原市	79.3 %	・東広島市	72.3 %

※市町については、[Q14](#)に書いてある区域における普及率です。したがって、市町全体の普及率とは異なります。

Q 6 : なぜ、9月10日が下水道の日なのですか？

A 6 : 下水道の役割の一つに、大雨による浸水被害を無くすことがあります。その意義を国民に知ってもらうため、昭和36年（1961年）に、建設省（現在の国土交通省）が、台風シーズンとされる220日☆（にひゃくはつか）にちなんで9月10日を「下水道の日」と定めました。

☆：立春の日から数えて220日目にあたる日。

＜参考＞

「下水道の日」には、下水道の役割や下水道整備の重要性などについて、みなさんの理解と関心を一層深めることを目的として、関連行事が全国の浄化センターなどで開催されます。

Q 7：下水道のない地域はどうしているのですか？

A 7：

- ① 以前は、し尿（大小便）はバキューム車などでくみ取った後、し尿処理場で処理し、家庭排水（台所、風呂場、洗面所、洗たくなどの水）は、そのまま付近の川や海に流していました。
- ② 最近では、各家庭に浄化槽を設置し、し尿や家庭排水などをまとめて処理し、付近の川や海に流しています。
- ③ そのほかに、団地などでは団地処理場を設置し、各家庭から出てくるし尿や家庭排水をまとめて処理し、付近の川や海に流しています。

Q 8：下水からは、においが出るのではないか？

A 8：

- ① 下水から空気中に出てくるにおいは、脱臭装置に吸い込んでにおい成分を取り除きますので、建物の外ではほとんどにおいません。
- ② 下水に溶けているにおいの成分は、下水処理することでほとんど分解しますので、処理水からのにおいはありません。

※浄化センターでは、悪臭防止法で決められている基準が守られているか、定期的に臭気測定をして確認しています。

Q 9：下水から出るにおいやガスは危険ではないのですか？

A 9：

[硫化水素]

- ① 下水処理施設で一番こわいガスは、毒性の高い硫化水素で、下水汚泥が腐敗する（腐る）時に発生し、無色で腐った卵のような悪臭がします。
- ② それがタンクや下水管の中にたまっていることがあります。作業員が作業中に死亡するという事故も起きています。
- ③ このような場所で作業をする時には、たえずガスの濃度を測定しながら、機械で新鮮な空気を送っています。また、防毒マスクを付けるとともに、常に見張りの人も置いています。

[メタンガス]

- ① 下水汚泥からは、メタンガスという無臭のガスも発生します。
- ② 可燃性のガスなので、近くでライターや火を使うことはできません。
- ③ 太田川東部浄化センターでは、このガスを発生させ（[Q43](#)）、燃料として有効利用していますが、ガスタンクのある場所では、異常がないかどうか毎日濃度を測定しています。

Q10：浄化センターでは、どのような人が働いているのですか？

A10：

- ① 主に「電気」、「機械」、「化学」の3つの分野の専門家が活躍しています。
- ② さらに、これらの分野の専門家と連携しながら、施設全体を安全かつ安定的に動かす「運転操作・監視業務」をする人も重要な役割を担っています。

＜参考＞

「電気」

浄化センターには、電気の力で動く機械や設備がたくさんあります（[Q25](#)）。これらの機械や設備に確実に電気を送り、安全に動かすことができるよう、電気設備の保守・管理をしています。

「機械」

たくさんの機械や設備を整備・点検し、正常に動くように保ちます。故障が見つかれば修理したり、古くなった機械や設備を新しくしたりします。

「化学」

下水を処理する過程のいろいろな水を検査し、汚れた水をきれいにできているか、微生物がきちんと働いているかなどをチェックしています。

「運転操作・監視業務」

中央操作室でコンピューターを使い、24時間体制で施設全体を監視しています。異常があれば対応し、機械や設備の操作や調整も行います。

Q11：日曜日や正月は休みですか？

A11：浄化センターへは、1年365日、絶えず下水が流れてくるので、汚れた下水をきれいにするために、いっときも休まずに交代で職員が機械の運転操作や水質検査などを行っています。

※みなさんが生活し、また企業が活動していくために、浄化センターは無くてはならない施設です。このような施設を「ライフライン」と呼んでいます。

Q12：仕事をしていて、うれしいことはどんなことですか？

A12：

- ① 汚れた下水が、きれいな水によみがえるのを見る時。
- ② 見学に来た人が、「ここに来てよかったです」「勉強になった」などと喜ばれた時。

2 施設に関するここと

Q13：どうしてこの場所に、浄化センターができたのですか？

A13：

- ① 下水は、たくさんの家庭や工場から下水管を通って浄化センターに流れています。
- ② たくさんの下水を処理するための施設は、その規模も大きくなるため、広い土地が必要です。また、処理した水を流す所も必要です。
- ③ そのため、海に近いこの場所につくられました。

Q14：ここには、どこからの下水が入ってくるのですか？

また、そこには何人住んでいるのですか？

A14：令和6年（2024年度）末時点

- ① 太田川東部⇒ 広島市（東区の一部、南区の一部、安芸区）と府中町、海田町、熊野町、坂町の1市4町
[人口] 30.0万人
- ② 芦田川⇒ 福山市（松永地域を除く）と府中市（中心部）の2市
[人口] 31.7万人
- ③ 沼田川⇒ 東広島市の一部（入野、白市、河内）と三原市（中心部、本郷、広島空港）の2市
[人口] 4.6万人

Q15：この施設はいつごろできて、広さはどのくらいですか？

A15：

- ① 太田川東部⇒ 昭和63年（1988年）
平成18年（2006年） 増設（高度処理施設）
[面積] 約31ヘクタール☆
[周囲] 約2,300m (徒歩30分)
- ② 芦田川⇒ 昭和59年（1984年）
[面積] 約29ヘクタール
[周囲] 約2,100m (徒歩25分)
- ③ 沼田川⇒ 平成8年（1996年）
[面積] 6.6ヘクタール
[周囲] 約1,000m (徒歩13分)
☆：1ヘクタールは、100m×100mの広さです。

Q16：この施設をつくるのに、どのくらいの費用がかかっているのですか？

A16：令和5年度（2023年度）末時点

- ① 太田川東部⇒ 約1,201億円
- ② 芦田川⇒ 約1,140億円
- ③ 沼田川⇒ 約 389億円

Q17：ここに入ってくる下水の量はどれくらいですか？

A17：令和6年度（2024年度）1日当たりの量

- | | | | |
|----------|---------|----------|-------|
| ① 太田川東部⇒ | 9万4千トン | 小学校のプール* | 310杯分 |
| ② 芦田川⇒ | 10万6千トン | " | 350杯分 |
| ③ 沼田川⇒ | 1万5千トン | " | 50杯分 |
- * : 25mプール（幅12m、深さ1m）で計算しています。

※水量の単位は、立方メートル（m³）を使いますが、分かりやすく「トン」表示にしています。水1m³=1トン=1,000リットル

Q18：下水管の長さを全部足すと、どのくらいになりますか？

A18：公社が管理する下水管のみの長さ

- ① 太田川東部⇒ 総延長 28.4km
- ② 芦田川⇒ 総延長 39.6km
- ③ 沼田川⇒ 総延長 43.2km

Q19：下水管の太さ（内径）はどのくらいですか？

A19：

- ① 太田川東部⇒ 最大 2.6m、最小 45cm
- ② 芦田川⇒ 最大 3.3m、最小 54cm
- ③ 沼田川⇒ 最大 1.7m、最小 15cm

Q20：下水がきれいになるまで、どれくらいの時間がかかるのですか？

A20：流入してから放流されるまでの処理時間

- ① 太田川東部⇒ 1系：約19時間、2系：約27時間（高度処理）
- ② 芦田川⇒ 約17.5時間
- ③ 沼田川⇒ 約19時間

Q21：下水の流れるスピードは、どれくらいですか？

A21：人が普通に歩く速度の時速4 kmくらいで流れています。

<参考>

下水管は、汚水が高いところから低いところへ自然に流れるよう、少し傾けて（平らな土地では、1,000m進むごとに0.6～2m程度深くなるよう）埋められています。

Q22：傾けて埋められた下水管は、浄化センターにはいってくるときには地下何メートルくらいになりますか？

A22：

- ① 太田川東部⇒ 地下20m
- ② 芦田川⇒ 地下16m
- ③ 沼田川⇒ 地下10m

Q23：下水管の点検は、どのように行っているのですか？

A23：

- ① 下水管の中は狭く、硫化水素のような危険なガスが溜まっていることもあります、酸素不足になっていることがあります。
- ② そのため、人が入れないことが多く、主にビデオカメラを搭載した機械を中心に入れ、その映像を見て点検をしています。

Q24：下水管が詰まったときは、どうやって取り除いているのですか？

A24：管の中にホースを入れ、その先から高圧の水を噴射して詰まりを取り除いています。

※下水管が詰まると下水道を使えなくなりますので、次のことに気を付けてください。

- ① トイレットペーパー以外の紙は流さないでください。ティッシュや紙おむつは、水に溶けません。
- ② 天ぷらを揚げた後の油を流さないでください。流れた油は、下水管の中で固まってしまいます。
- ③ お風呂の排水口に髪の毛を流さないよう、こまめに掃除して取り除きましょう。

Q25：浄化センターには、どのような機械や設備がありますか？

A25：次のような大きな機械・設備があります。

- ① ポンプ ⇒ 20メートル以上の地下から、下水をくみ上げます。
- ② かくはん機 ⇒ 下水と活性汚泥と呼ばれる微生物をかき混ぜます。
- ③ 送風機 ⇒ 下水の汚れを食べる微生物に空気（酸素）を送ります。
- ④ 脱水機 ⇒ 下水をきれいにした後に残った汚泥の水分をしぼります。

※ほかにも、たくさんの機械や設備があります。

＜参考＞

これらの機械や設備を動かすためには、1日にたくさんの電気が必要です。みなさんのおうちの1か月の電気使用量と比べてみましょう。

- ① 太田川東部 ⇒ 約 57,000 kWh／日
- ② 芦田川 ⇒ 約 60,000 kWh／日
- ③ 沼田川 ⇒ 約 11,000 kWh／日

あなたのうちの電気使用量

kwh／月

Q26：機械や設備があるところは、どうなっているのですか？

A26：浄化センターでは、ほとんどのものを建物の地下に収めています。

- ① それぞれの建物の地下は、地下道でつながっていて、そこには電気や水の配管などが碁盤の目のように通っています。
- ② この地下道の長さは、太田川東部浄化センターは約 2 km、芦田川浄化センターは約 1.5 km あります。
- ③ 沼田川浄化センターでは、地下ではなく地上の建物に収めています。

Q27：停電になったら、機械や設備は停止するのですか？

A27：浄化センターには、自家用発電機が設置してありますので、停電になっても機械や設備を動かし続けることができます。

Q28：機械や設備を守るためのお金は、だれが払っているのですか？

A28：

- ① 浄化センターは、その地域で下水を使うみなさんが支えています。
- ② みんなが払っている「下水道使用料」によって、水をきれいにするために毎日動いている機械や設備を点検・修理するなどして、守ることができます。

3 水質に関すること

Q29：浄化センターには、どのような所から汚水が入ってくるのですか？

A29：下水道が整備されている地域からのすべての汚水が入ってきます。

- ①一般家庭（台所、風呂場、洗面所、洗たく、トイレなど）からの汚水
- ②事業場（ホテル、飲食店、病院、工場など）からの汚水

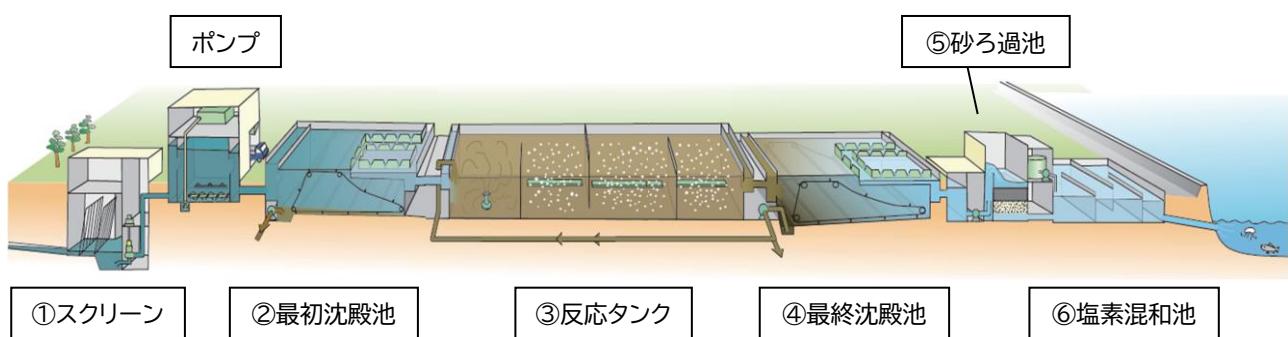
Q30：し尿の割合は、全体のどのくらいですか？

A30：し尿に含まれるアンモニアの濃度から計算すると、約1パーセント（100分の1）程度と考えられます。

Q31：きれいな水にするために、どのようなことをしているのですか？

A31：次の手順で下水を処理しています。

- ① 大きなゴミを取り除く。 (スクリーン)
- ② 汚泥や小さなゴミを取り除く。 (最初沈殿池)
- ③ 下水に溶けている汚物（有機物）を活性汚泥と呼ばれる微生物できれいにする。 (反応タンク)
- ④ 活性汚泥を沈ませ、活性汚泥と水を分離する。 (最終沈殿池)
- ⑤ まだ少し残っているゴミを取り除く。 (砂ろ過池)
- ⑥ 最後に消毒して海に流す。 (塩素混和池)



Q32：下水をきれいにするために、薬品は使わないのですか？

A32：下水は、主に活性汚泥と呼ばれる微生物が、汚れを食べることによってきれいになります。

- ① 太田川東部浄化センターには、窒素やリンをより多く取り除くために作られた施設があり、そこではポリ塩化アルミニウムという薬品を使ってリンを取り除いています。
- ② 海に流す前には、水道水やプールの消毒に使う塩素を含んだ薬品（次亜塩素酸ナトリウム）を加えて、大腸菌を殺菌しています。

＜参考＞

消毒に使う薬品は、バケツ1杯（10㍑）に対して、1～2滴の量を使っています。

Q33：下水の処理水で、魚が死ぬことはないのですか？

A33：下水の処理水は、魚がすめるくらい、きれいになっています。

- ① 太田川東部浄化センターと沼田川浄化センターでは、ビオトープ（その地域に住む生物が生息できるようにした水辺などを含む空間）を作り、処理水でメダカを飼っています。
- ② 処理センターでは処理水でコイを飼い、水質の状況を観察していますが、まったく異常はありません。

＜参考＞

水の中の汚れの程度を表すBOD（ビーオーディー）という項目があり、数値が大きいほど水中の汚れがひどいことを示しています。

（単位：mg/L）

	し尿	下水（汚水）	魚がすめる水	下水処理水	水道水
BOD	13,000	200 ～300	5以下	1～4	0

Q34：ビオトープのメダカは何を食べているのですか？

A34：ビオトープの水路や池には、多くのメダカがありますが、特にエサは与えていません。水路や池にいる小さなプランクトンや小生物を食べているようです。

Q35：ビオトープにはメダカしかいないのですか？

A35：

- ① メダカの他に、トンボの幼虫（ヤゴ）やその他の水生昆虫、カエルがいます。
- ② メダカやヤゴなどをエサにするサギや、生えている植物をエサとするカモなども来ます。

Q36：どうやって水がきれいになったかを確認するのですか？

A36：見た目の透明さがありますが、それだけでは水に溶けている物はわからないため、毎日、水の検査を行って確認しています。

- ① 汚染度を総合的に示す COD（シーオーディー）という項目や栄養塩類といわれる窒素やリンは、機械で常時測っています。
- ② 水の性質が中性になっているかを示す pH（ピーエイチ）という項目や、消毒の目安となる残留塩素も毎日検査しています。
- ③ 水の中に有害なものが入っていないか、その他の項目についても、定期的に検査を行っています。

※ pHは0から14までの数値で表され、7が中性、7より小さい場合は酸性、大きい場合はアルカリ性となります。

Q37：きれいになった水は、どうしているのですか？

A37：下水を処理したほとんどの水は、海（川）に放流しています。

- ① 一部ですが、再利用水として浄化センター内で使っている機械などを冷やすための水、汚れた機械を洗う水、トイレの水、樹木への散水、修景池やビオトープに水道水の代わりに使っています。
- ② 太田川東部浄化センターと芦田川浄化センターでは、きれいになった水を下水管の清掃、道路や樹木への散水に使用したい方に、無償で提供しています。

〈参考〉

浄化センター内で使う再利用水量（令和6年度（2024年度））

- ① 太田川東部⇒ 1日当り 8,100トン（約 9% 放流水量比率）
- ② 芦田川⇒ " 5,300トン（約 5% " ）
- ③ 沼田川⇒ " 700トン（約 5% " ）

Q38：きれいになった水は飲めますか？

A38：下水処理水は、水道水のように飲むための処理をしているわけではないので、そのままでは飲むことはできません。

<参考>

外国（シンガポールやアフリカのナミビアなど）では処理水をさらに処理し、飲料用として使っているところもあります。

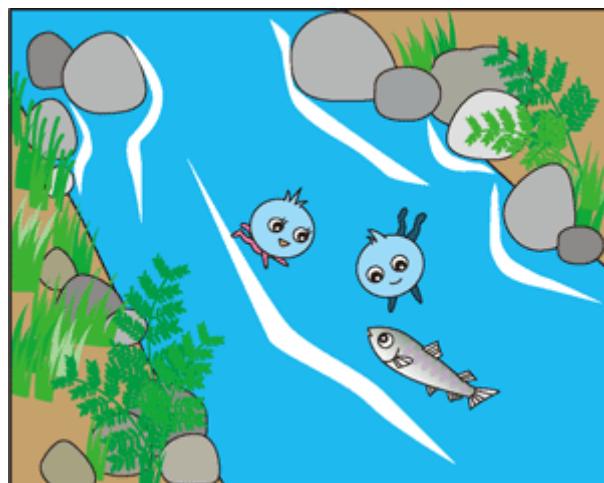
日本でも将来、飲料用として使うようになることがあるかも知れません。

Q39：わたしたちが気を付けることは何ですか？

A39：下水をきれいな水にするために微生物の力を借りていますので、微生物を死滅させないため、次のことを守ってください。

- ① 灯油やシンナー、農薬などの危険物を流さないでください。
(使わなくなった危険物は、購入先に引き取ってもらいましょう。)
- ② 洗剤は正しい量を使い、使い過ぎないようにしましょう。

※下水管が詰まると下水道が使えなくなります（[Q24](#)）。水に溶けないティッシュや油などは流さないでください。



4 下水汚泥に関すること

Q40：下水汚泥は肥料やセメントになる、と聞きましたが本当ですか？

A40：本當です。

- ① 淨化センターに入って来る下水の中には、し尿や泥（粘土）、砂などが含まれています。また、水処理の過程で活性汚泥が増殖するので、増えすぎてあふれたりしないように、これを引き抜き処理する必要があります。
- ② こうしたもの（「下水汚泥」と言います。）には、植物にとって栄養となる窒素やリンが豊富に含まれており、いろいろな処理や加工をして肥料として活用されています。
- ③ また、セメントには下水汚泥の中の粘土や砂が、その原料として活用されています。

＜参考＞

江戸時代には、ほとんどのし尿が農作物の肥料として使われていましたが、化学肥料が使われ始め、また衛生的でないことから、今ではほとんど使われていません。

Q41：下水汚泥の活用は、肥料とセメントだけですか？

A41：芦田川浄化センターでは、下水汚泥を粒状に乾燥させ、固体燃料（ペレット）を製造しています。

- ① 広島県は、平成29年1月から芦田川浄化センターにおいて、下水汚泥固体燃料化施設の運用を開始しました。
- ② 芦田川浄化センターと県内近隣の4か所の浄化センターから発生する下水汚泥を集約し、固体燃料を製造しています。
- ③ この固体燃料は、石炭の代わりになり、発電施設の燃料として民間企業へ売られています。

＜参考＞

下水汚泥は、人間生活に伴い必ず発生する安定したバイオマス資源です。下水汚泥から固体燃料を製造し、有価で供給することは、下水汚泥の有効利用だけでなく、温室効果ガスの削減による地球温暖化防止への貢献にもつながっています。

Q42：1日どのくらいの下水汚泥が出るのですか？

A42：令和6年度（2024年度）の脱水汚泥（下水汚泥を脱水したもの）量

- ① 太田川東部⇒ 約41トン
- ② 芦田川⇒ 約57トン
- ③ 沼田川⇒ 約14トン

※1トン=1,000キログラム=大人（65キログラム）15人分

10トン=大型ダンプカー1台分の積む量

Q43：汚泥からどのようにガスを発生させるのですか？

A43：

- ① 下水を処理すると、きれいな水になりますが、固体物（汚泥）が残ります。
- ② この固体物を消化タンクという酸素の無い容器へ入れ、体温ぐらいに温めます。
- ③ そうすると、その中にいるメタン生成菌という細菌の働きで、固体物に含まれている食べかすなどが分解され、メタンガスや二酸化炭素、水に変わります。

＜参考1＞

太田川東部浄化センターで発生したメタンガスは、民間会社に売却され、民間会社がそのガスを使って発電を行っています。

＜参考2＞

みんなの体でも同じようなことが起こっているのです。それは、誰からも出るオナラですが、その中にもメタンガスが含まれています。



太田川東部浄化センターの消化タンク

公益財団法人広島県下水道公社

本社（太田川流域下水道東部浄化センター）

住所：広島市南区向洋沖町1番1号

TEL：(082) 286-8200

FAX：(082) 286-8188

福山支所（芦田川流域下水道芦田川浄化センター）

住所：福山市箕沖町106番地

TEL：(084) 954-2733

FAX：(084) 954-9227

三原支所（沼田川流域下水道沼田川浄化センター）

住所：三原市円一町一丁目2番1号

TEL：(0848) 67-6585

FAX：(0848) 67-6590

浄化センターの施設見学を希望される方へ

1. 見学を希望される浄化センターへ電話等で予約をしたうえ、施設見学申込書を各浄化センターまで提出してください。
2. 小学生、小さなお子様は上履きを持参してください。
3. その他詳しいことは各浄化センターへお問い合わせください。

施設見学申込書のダウンロードはこちら



